マネジメントレポート

QRコードを使い，野菜の詳細情報を伝えるシステム

プロジェクトマネジメント演習

2015年7月23日

矢吹研C班

メンバ

PM 1342014 泉雄太

メンバ 1342011 石川大貴

1342066 島田樹

1342100 春川直幸

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| シニア承認 | ユーザ承認 | PM確認 |
|  |  |  |

# 1.EVMSグラフ

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 日付 | 4/10 | 4/17 | 4/24 | 5/1 | 5/8 | 5/15 | 5/22 | 5/29 | 6/5 | 6/12 |
| PV | 0.0 | 38.0 | 76.0 | 114.0 | 152.0 | 190.0 | 228.0 | 268.0 | 307.0 | 317.0 |
| AC | 0.0 | 3.0 | 46.0 | 72.0 | 98.0 | 124.0 | 135.0 | 195.0 | 237.0 | 247.0 |
| EV | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 100.0 | 307.0 | 311.0 |
| SV | 0.0 | -38.0 | -76.0 | -114.0 | -152.0 | -190.0 | -128.0 | -168.0 | 0.0 | -6.0 |
| CV | 0.0 | -3.0 | -46.0 | -72.0 | -98.0 | -124.0 | -35.0 | -95.0 | 70.0 | 64.0 |
| SPI | #N/A | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.44 | 0.37 | 1.00 | 0.98 |
| CPI | #N/A | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.74 | 0.51 | 1.30 | 1.26 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 6/19 | 6/26 | 7/3 | 7/10 | 7/17 |
| 343.0 | 375.0 | 419.0 | 473.0 | 519.0 |
| 259.0 | 282.0 | 317.0 | 378.0 | 450.0 |
| 317.0 | 319.0 | 377.0 | 467.0 | 519.0 |
| -26.0 | -56.0 | -42.0 | -6.0 | 0.0 |
| 58.0 | 37.0 | 60.0 | 89.0 | 69.0 |
| 0.92 | 0.85 | 0.90 | 0.99 | 1.00 |
| 1.22 | 1.13 | 1.19 | 1.24 | 1.15 |

# 2.マネジメントの詳細

## 2.1上流工程

期間：2015/4/10~2015/6/5

何度も手戻りが発生しており，5月15日までEVが0の状態が続いた．手戻りの理由としては，システム案そのものが通らずに憲章と要件定義書の書きかえを何度も行ったためである．5月15日以降になってから同時並行的に作業が進み納期には間に合ったが，ドキュメントの品質は低く，下流工程での見直し作業を増加させる要因となった．

またガントチャート・WBSの作成がきちんと行われておらず，スコープに漏れがあったり，計画時間が妥当ではなかったりした．

改善案としては以下が挙げられる．

1. システム案の考案の際にはシニアマネージャも含めてミーティングをきちんと行い，システムの概要が確定してから作業に入る．
2. WBSをきちんと作り，スコープに漏れがないようにする．また，WBSも他の書類と同様にシニアマネージャのレビューを受けることにより，品質を保つ．
3. ガントチャートで日程計画を作成する際に成果物ごとにどの程度作業が必要なのか見積もって作成することにより，妥当性の高い日程計画を作成する．

## 2.2下流工程

期間：2015/6/5~2015/07/17

　PMの体調不良と上流工程のマネジメントの失敗により6月26日までに見直しと内部設計書に遅延が発生する．それにより内部設計書とプログラムにおいて変更箇所が発生し，プログラムの品質が低下する事態になった．最大の原因はリスクマネジメントが不十分であり不測の事態に対応できなかったことである．

改善案としては以下が挙げられる．

1. リスク摘出をきちんと行い，さらにシニアとのミーティングにより完成度をあげる．
2. リスク計画によって定義されていなかったリスクが発生した場合でも対応できるようにチームビルディングやリスク計画を行う．